

EMC QuickStart - 60分で一周する

Ver 1.1 / A4一枚

Enterprise Model Canvas（EMC）＝学習し続ける企業の設計図。Purposeを指針に、現在のAS-IS BMCから目指すTO-BE BMCへの変化と、その差を埋める学びを一枚で設計する。完成を狙わず、付箋でまず60分の仮説をつくる。

※本キャンバスはBMC・VPCの習得を前提とします。②③はBMCで記入。AIが動かしても、決めるのは人。

推奨記入順 - ①→②→③→④→⑤→⑥→⑦→⑧

番号はCanvas上の要素番号。Gap（④）は、現在のBMC（②）と目指すBMC（③）を比較してから選ぶ。番号は書く順、キャンバスの矢印は育つ向き。

#	ブロック（現場語）	この欄に書くこと	時間
①	Purpose 目指す姿	顧客（相手）の何がどう変わっている状態か。「～している状態」の1文を1枚。	5分
②	Value Flow（AS IS） いまのBMC	現在の事業構造をBMCで。実際に顧客へ価値が届く仕組みを9ブロックで描く。	15分
③	Value Flow（TO BE） 目指すBMC	Purposeを実現する事業構造をBMCで。AS ISと同じ粒度で描き、変わるブロックを特定する。	15分
④	Gap のびしろ	②と③の差のうち、外部変化も踏まえて次に埋める1～3点を選ぶ。課題を全部並べない。	5分
⑤	Learning Flow ふりかえって学ぶ流れ	PJ・案件単位で「トリガー→場→結果物」。横断レビューで⑥⑦と事業構造を更新する。	5分
⑥	Knowledge たまった知恵	取り出して人に渡せる、実在する知恵（事例集・基準・手順・モデル）。	5分
⑦	Capability いま、できること	現在のBMCを支える力を「～できる」で5±2枚。人が辞めても残るものだけ。	5分
⑧	Identity いまの立ち位置	外からどう見られ、内に何が根づくか。願望ではなく事実を、外2～3枚＋内2～3枚。	5分
合計 - まず一周			60分

迷ったら：個人名が浮かんだら⑥Knowledge化の候補。「作りたいもの」は④Gapへ。⑤は⑥知恵・⑦能力・⑧立ち位置を更新するエンジンとして全体に効く。

一周したらAIレビュー - 採否は人が決める

あなたは企業設計の批判的レビュアーです。このEMCを読み、①PurposeとTO-BE BMCの不整合、②AS-IS→TO-BEの差とGapのずれ、③Gapを埋めるために不足するCapability・Knowledge・Learning Flowを、該当箇所と根拠つきで指摘してください。

二周目 - 2本の線を使う

外部シグナル（外的変化） Gap（④）を選ぶ前に「この半年、外で何が変わった？」を問う。顧客の期待・競合・使える技術を見る。	目指す姿の問い直し（⑤→①） 年に数回、「学んだ結果、Purpose自体を変えるか」を問う。変えない結論も正常。
---	---

つまずき逆引き

こう書いてしまう	こう直す	欄
Identityに願望を書く	「顧客第一」ではなく「相見積もりで指名される」のように事実で。	⑧
Gapに課題を全部並べる	②→③で変わるブロックから、次の1～3点に絞る。	④
Knowledgeに「作りたいもの」を書く	実在するものだけ。作りたいものは④へ。	⑥/④